

清流

川メール

発行日／令和7年6月4日
発行／静岡県河川協会
(事務局：交通基盤部河川砂防局内)
E-mail：kasenk_shizuoka@yahoo.co.jp
HP：https://shizuoka-kasenk.com/
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
TEL：090-1416-4365 FAX：054-221-3260



狩野川 (提供:狩野川漁業協同組合)



奥野ダム (提供:伊東市)

C O N T E N T S

令和7年度河川・海岸関係予算の概要	1
令和6年度の2月補正予算(国補正予算)について	2

県内のトピックス

流域治水の取組推進について	3
菊川水系黒沢川が「特定都市河川」に指定されました	3
「しぞ〜か防災かるた『豪雨の備え編』」～遊びながら防災意識を高める教材～	4
坂口谷川水門完成式典が盛大に開催されました!!	5
浜名港海岸の命山が完成! 愛称は「今切の丘」	6
静岡海岸の砂浜を「海岸保全施設」に指定	6
中小河川の洪水浸水想定区域の指定	7
遠州灘沿岸の高潮浸水想定区域図の公表	7
境川・清住緑地での取組が第5回グリーンインフラ大賞「優秀賞」を受賞!	7
第16回全国河川・ダム管理技術検討会において	8
「リモコン式草刈機を用いた効率的な河川管理」が奨励賞を受賞しました!!	8
川って楽しい場所? 危ない場所? ～水難事故に備えよう～	8
能登半島地震の支援派遣から学ぶ、復旧復興の課題と成果(福田主査)	9
能登半島被災地支援で学んだ被災地の課題(今村技師)	9

わがまちの川自慢

袋井市・長泉町	10
---------	----

インフォメーション

『第22回しずおか川自慢大賞』が開催されました	11
ごあいさつ(河川砂防局長)	11
静岡県河川協会事務局より、日本河川協会個人会員募集	11

令和7年度

静岡県河川・海岸関係予算の概要

〈当初予算〉 **374億7,300万円余**

(昨年度当初比107.4%)

健康で心のふれあう安全社会、自然を生かす美しい県土を形成するため、「災害に強い安全な地域づくり」、「うるおいのある水辺空間の整備」、「水資源の保全と有効利用」などを目標に河川・海岸の整備を進めます。

河川事業

189億2,972万円
(前年度当初比 94.3%)

近年の激甚化・頻発化する豪雨災害に対し、沼川では放水路を、巴川では遊水地を整備推進するほか、県内河川では河道拡幅や堤防整備等を実施します。大規模地震に対する津波対策では、馬込川、初川等において水門整備を進めます。また、長寿命化計画に基づき河川管理施設の老朽化対策を実施し、適正な管理に努めます。

海岸事業

95億727万円
(前年度当初比 200.5%)

「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2023」の目標である「令和7年度までの3年間で想定被害者の9割減災」に向け、海岸堤防の嵩上げ等を進めます。清水海岸では、三保松原の景観改善及び海岸侵食対策として離岸堤の整備等を進めます。また、海岸侵食が著しい竜洋海岸等では、養浜等の対策を実施します。

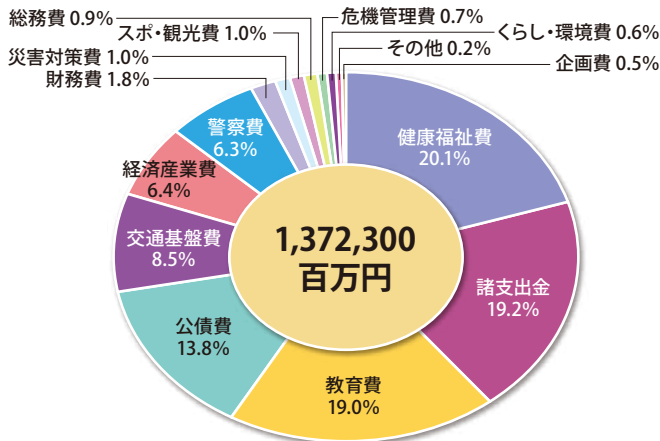
災害復旧事業

90億3,600万円
(前年度当初比 89.7%)

台風や集中豪雨などの異常な天然現象で生じた河川や海岸などの公共土木施設の被害箇所の早期復旧を図ります。また、今後の風水害による施設被災についても迅速に対応していきます。

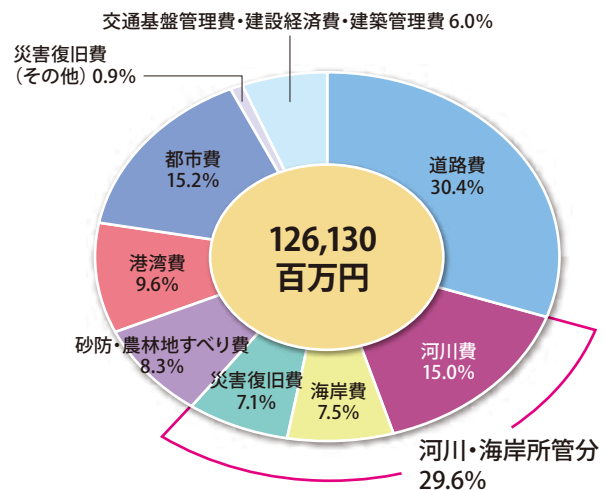
■静岡県予算

令和7年度当初

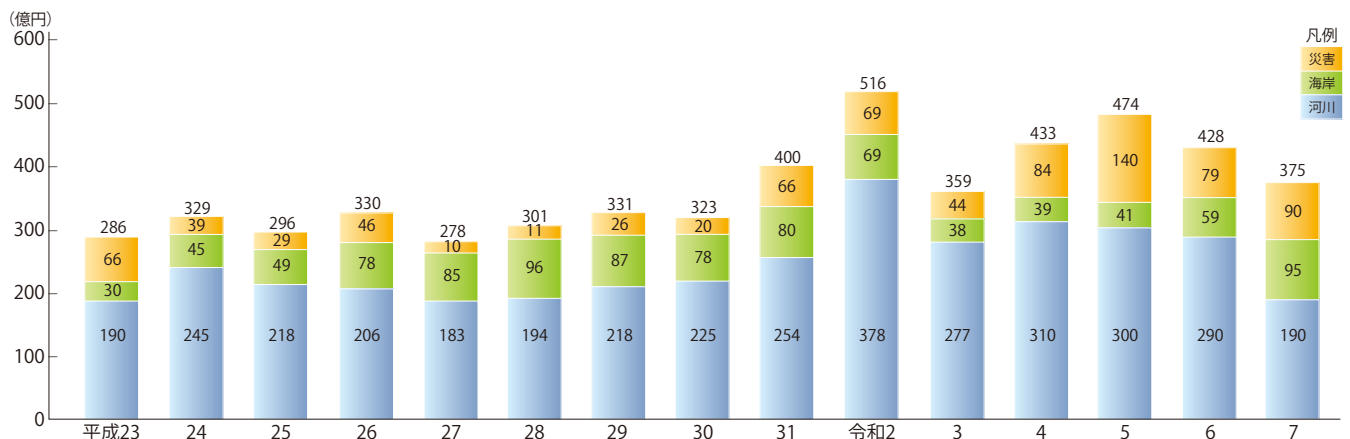


■交通基盤部予算

令和7年度当初



■河川・海岸関係予算の推移



(※令和7年度は当初予算、他は最終予算)

■令和7年度河川・海岸関係予算

(単位:千円、%)

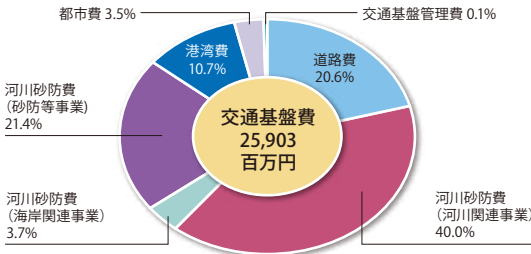
区 分	令和7年度	6年度		伸び率(%)	
	7当初(A)	6当初(B)	6最終(C)	A/B	A/C
河川砂防管理費	920,722	917,398	923,440	100.4	99.7
河川行政費	3,624	3,550	3,393	102.1	106.8
河川維持管理費	914,950	911,700	911,700	100.4	100.4
砂防管理費	2,148	2,148	2,147	100.0	100.0
半島防災推進事業費(河川)	0		6,200	-	皆増
河川改良費	16,682,005	17,750,487	25,836,775	94.0	64.6
国庫補助事業費	6,861,000	8,041,000	16,134,722	85.3	42.5
河川関係国庫補助事業費	2,736,000	3,624,000	5,064,036	75.5	54.0
社会資本整備総合交付金事業費(河川)	2,945,000	3,156,000	10,818,448	93.3	27.2
河川等災害関連事業費	1,005,000	1,005,000	65,495	100.0	1534.5
演習場地区河川事業費	175,000	256,000	186,743	68.4	93.7
県単独河川事業費	9,821,005	9,709,487	9,702,053	101.1	101.2
県単独河川事業費	4,451,050	4,454,300	4,444,300	99.9	100.2
準用河川等改修費助成	115,000	115,000	125,000	100.0	92.0
豪雨等災害対策緊急事業費(河川)	0	1,080,000	1,080,000	皆減	皆減
緊急豪雨災害対策強化事業費(河川)	1,080,000			皆増	皆増
河川管理権限移譲費助成	22,000	7,000	3,000	314.3	733.3
佐鳴湖リフレッシュ事業費	955	1,187	1,187	80.5	80.5
緊急自然災害防止対策事業費(河川)	2,130,000	2,130,000	2,130,000	100.0	100.0
太田川ダム管理用発電設備運用事業費	22,000	22,000	18,566	100.0	118.5
津波対策施設等整備事業費(河川)	500,000	400,000	400,000	125.0	125.0
県土強靱化対策事業費(河川)	1,500,000	1,500,000	1,500,000	100.0	100.0
海岸費	8,669,275	4,241,275	4,786,310	204.4	181.1
国庫補助事業費	1,391,000	1,426,000	2,179,300	97.5	63.8
海岸関係国庫補助事業費	149,000	178,000	314,500	83.7	47.4
社会資本整備総合交付金事業費(海岸)	1,242,000	1,248,000	1,864,800	99.5	66.6
県単独海岸事業費	7,278,275	2,815,275	2,607,010	258.5	279.2
県単独海岸事業費	356,000	356,000	356,000	100.0	100.0
県単独特定海岸保全施設整備事業費	71,375	71,375	71,375	100.0	100.0
海岸漂着物等対策事業費(景観保全)	7,900	7,900	4,288	100.0	184.2
「静岡モデル」防潮堤整備促進事業費	6,843,000	2,380,000	2,175,347	287.5	314.6
(河川海岸費 小計)	26,272,002	22,909,160	31,546,525	114.7	83.3
国直轄事業費負担金	2,165,000	1,906,000	3,287,217	113.6	65.9
国直轄河川事業費負担金	1,327,000	1,405,000	2,157,882	94.4	61.5
国直轄海岸事業費負担金	838,000	501,000	1,129,335	167.3	74.2
河川海岸費 計	28,437,002	24,815,160	34,833,742	114.6	81.6
過年災害土木復旧費	2,345,000	3,420,000	3,266,032	68.6	71.8
補助災害	2,345,000	3,420,000	3,266,032	68.6	71.8
補助災害土木復旧費	2,344,000	3,419,000	3,266,032	68.6	71.8
市町村指導監督事務費	1,000	1,000	0	100.0	皆増
現年災害土木復旧費	6,420,000	6,410,000	4,517,755	100.2	142.1
補助災害	5,330,000	5,330,000	2,874,101	100.0	185.4
補助災害土木復旧費	5,309,000	5,309,000	2,873,501	100.0	184.8
市町村指導監督事務費	21,000	21,000	600	100.0	3500.0
単独災害	1,090,000	1,080,000	1,643,654	100.9	66.3
県単独災害土木復旧費	110,000	100,000	583,214	110.0	18.9
土木施設災害対策調査費	980,000	980,000	1,060,440	100.0	92.4
国直轄事業費負担金	271,000	245,000	134,773	110.6	201.1
土木施設災害復旧費 計	9,036,000	10,075,000	7,918,560	89.7	114.1
合 計	37,473,002	34,890,160	42,752,302	107.4	87.7
河川事業費計	18,929,727	20,072,885	28,918,097	94.3	65.5
海岸事業費計	9,507,275	4,742,275	5,915,645	200.5	160.7
災害復旧費計	9,036,000	10,075,000	7,918,560	89.7	114.1

令和6年度の2月補正予算(国補正予算)について

令和2年12月11日、政府では「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が閣議決定され、国土強靱化の取組を加速化・深化させるための必要となる事業規模が示されました。

これを受け県では、国の5か年加速化対策に呼応し、道路・河川・港湾施設などの防災・減災対策等について、令和7年2月議会に令和6年度の補正予算を盛り込みました。

県河川事業として約103億6千万円、県海岸事業として約9億7千万円の予算規模になっており、国土強靱化の5か年加速化対策を重点的かつ効果的に進め、激甚化・頻発化する水災害等に対する防災・減災対策「流域治水」の推進と、防災インフラの老朽化対策を実施し、災害に強い安全で安心な生活基盤の確立を目指します。



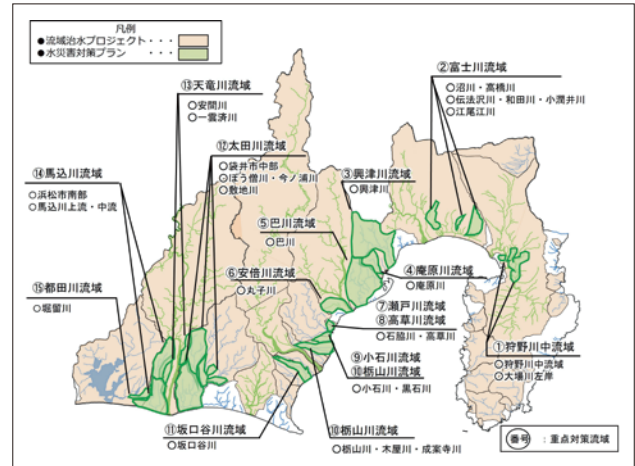
区 分	事 業 名	補正予算額
河川海岸関係	合計	11,330,200
河川関連事業		10,359,200
	社会資本整備総合交付金事業費(河川)	7,679,000
	河川関係国庫補助事業費	2,029,000
	国直轄事業費負担金(河川)	642,000
	河川管理権限移譲費助成	3,000
	半島防災推進事業費(河川)	6,200
海岸関連事業		971,000
	社会資本整備総合交付金事業費(海岸)	567,000
	海岸関係国庫補助事業費	157,000
	国直轄事業費負担金(海岸)	247,000

流域治水の取組推進について

県では、気候変動により激甚化・頻発化する水災害に対し、流域のあらゆる関係者が連携して水災害対策を行う「流域治水」を推進しています。国・県・市町等で構成する流域治水協議会等において具体的な取組の内容について議論を重ね、河川整備等を重点的に進める水系は「流域治水プロジェクト」、特に浸水被害が頻発する地区は「水災害対策プラン」を策定しました。引き続き、関係者間で進捗状況を共有するとともに、住民等も含めたあらゆる関係者が主体的に流域治水に取り組むため、水災害に備えて一人ひとりが「いつ」「どのような」行動をするのかを決めた「マイ・タイムライン」作成の支援など「水災害の自分事化」を推進していきます。



出典:「流域治水」の基本的な考え方(国土交通省)



流域治水関連計画の策定状況

菊川水系黒沢川が「特定都市河川」に指定されました

国土交通省は、令和7年3月31日に流域治水の本格的な実践に向けて、流域治水関連法の中核をなす特定都市河川浸水被害対策法に基づき、菊川水系黒沢川を特定都市河川に指定しました。

令和7年4月16日には直轄河川で県内初となる特定都市河川の指定にあわせて、菊川市の長谷川市長、国土交通省中部地方整備局の佐藤局長、県の塚本副知事が一堂に会し、「菊川水系黒沢川の特定都市河川指定に関する流域水害対策推進表明書取交式」が、菊川市役所において行われました。取交式では、関係者が連携し、治水対策を加速化するとともに、流出抑制の取組を実施するなど、流域水害対策を推進することを表明しました。塚本副知事からは、「黒沢川流域において、浸水被害を未然に防ぐ・被害を軽減する、実効性のある治水対策の計画を、国、菊川市と連携して策定し、着実に対策を進めることで、黒沢川流域全体の治水安全度の向上に努めてまいります。」とのお言葉を頂きました。



表明書取交し



菊川市長の挨拶



署名した表明書

「しぞ〜か防災かるた『豪雨の備え編』」～遊びながら防災意識を高める教材～

水災害に対して、「流域治水」の考え方にに基づき、行政だけでなく、地域住民や企業、学校など、あらゆる関係者が水災害を「自分事」として捉え、主体的に行動することが重要です。このため、県では、水災害に対する意識を高め、地域防災力の向上を目的に、ソフト対策の一環として防災教材「しぞ〜か防災かるた『豪雨の備え編』」（以下、「防災かるた」という。）を作成しました。

「防災かるた」は、県の「水辺の魅力」と「水災害に関する防災の心得」を題材に、遊びながら学べることを重視した教材です。上の句には県の美しい水辺の魅力を、下の句には水災害への備えを伝える防災の心得を記載しています。さらに、読み札の裏側には解説を加え、内容をより深く理解できるよう工夫しました。子どもから大人まで楽しみながら実践的な防災知識を身に付けられる点が特徴です。

今回の「防災かるた」は、「しぞ〜か防災かるた委員会」（静岡市を中心に活動する市民団体）が作成した「静岡市版」および「静岡県版」に次ぐ第3弾として、県と「しぞ〜か防災かるた委員会」が協働で作成しました。

作成にあたっては、県内の賀茂・東部・中部・西部地域でワークショップを計4回開催し、学生や市民団体が「流域治水」について考えながら「水辺の魅力」や「水災害に関する防災の心得」のキーワードを出し合い、組み合わせることで句を作成しました。住民の目線に立った防災・減災ポイントが句に組み込まれているため、親しみやすく、学びやすいものとなっています。

かるた遊びを通じて、水災害に関するキーワードを知るきっかけを作ることやキーワードについて深く学ぶことで、地域へのリスクについて、自分との関わりや対策を考えるきっかけを作ることができます。今後は、主に小中学校での防災教育の教材として展開することを予定しており、学校の授業や地域イベントで活用することで、子どもたちが楽しみながら水災害について学べる環境を提供していきます。

県が取り組むこの新しい防災教材「防災かるた」は、かるた遊びを通じて「水災害の自分事化」のきっかけ作りができ、防災意識を高める画期的な試みです。地域全体で水災害に強い社会を築くため、この取組に御注目・御活用ください。

問合せは、以下の問合せ先にご連絡をお願いします。



【問合せ先】

- ・「しぞ〜か防災かるた『豪雨の備え編』」に関すること
静岡県河川砂防局土木防災課 TEL:054-221-2249
- ・防災講座に関すること
静岡県総務部 各地域局危機管理課
静岡県交通基盤部 各土木事務所企画検査課



句づくりワークショップの様子



袋井商業高校で開催したワークショップの集合写真



しぞ〜か防災かるたを体験する学生たち

さくちやがわ 坂口谷川水門完成式典が盛大に開催されました!!

県では、第4次地震被害想定で対象とした100～150年に一度の頻度で発生し、大きな被害をもたらす「レベル1津波」を防護できるよう、河口部の水門や防潮堤の整備を進めています。

この度、坂口谷川の地震・津波対策として、平成28年度から約8年の歳月をかけて進めてきた坂口谷川水門の工事（総工費約44億円）が、令和7年2月に竣工しました。この水門の完成により、レベル1津波の河川の遡上による浸水被害の防止が期待されます。

令和7年2月8日（土）には、完成式典が開催され、牧之原市長や吉田町長、県副知事をはじめ、国会議員や県議会議員、地元関係者など多くの来賓が出席し、地域の安全を守る新たな防災施設の完成を祝いました。

式典は坂口谷川水門東側の隣接地に設けられた特設会場で行われ、地元の「はいばら太鼓保存会」と「小山城太鼓保存会」による力強い演奏が式典を盛り上げる中、水門を閉鎖するセレモニーが行われました。参加者は水門が完成したことにより、地域の安全性が向上したことを改めて実感していました。

式典後には、施設内見学会が行われ、参加者は、水門がレベル1津波（T.P.+6.2m）を防護できる構造であることや、震度5強相当の揺れを検知すると約2分で自動的に閉じる仕組みを備えていること、県島田土木事務所から遠隔操作できることなどの説明を受け、施設の詳細な構造や運用方法について理解を深めていました。

今回の完成式典は、坂口谷川水門が地域住民の安全・安心に寄与する施設として大きな役割を果たすことを示し参加した方々の防災意識を高める機会ともなりました。

南海トラフ巨大地震の発生が危惧される中、静岡県は今後も津波防御施設の整備や適切な維持管理を進め、地域の安全と安心を守る取組を継続してまいります。



水門起動セレモニーの様子



主催者挨拶(増井前副知事)



はいばら太鼓保存会と小山城太鼓保存会による力強い演奏



会場の状況

浜名港海岸の命山が完成! 愛称は「^{いまぎれ}今切^{おか}の丘」

湖西市の国道1号バイパスを車で走行していると、浜名湖の今切口に大きな丘が出来ていることにお気付きの方も多いのではないのでしょうか?

この大きな丘は「命山」といい、想定される最大クラスの津波(レベル2津波)から新居弁天海釣り公園の利用者の命を守るための緊急避難施設として、県浜松土木事務所が整備し、令和7年4月1日から一般開放しています。

命山は、有事のみならず平時にも頂上まで登ることが可能です。頂上からは、浜名湖を一望でき、天気の良いれば富士山まで見晴らせます。

地域のシンボルとして永く愛される施設となるように広く「愛称」を募集したところ、県内外から874件もの応募をいただきました。厳正な選考を経て、湖西市在住の石田充裕さんから応募のあった「^{いまぎれ}今切^{おか}の丘」に愛称が決定しました。石田さんからは、「浜名湖の入り口『今切口』の近くにあるこの丘が、多くの命を守る場所であってほしいとの想いを込めて命名した」と伺いました。

また、地元の新居高等学校書道部の皆さんに、パンフレット等に使用する文字を揮毫してもらいました。

「いざという時には迷わずに頂上に!」…たとえ空振りに終わっても、素晴らしい景色が心を癒してくれるはずです。



浜名港海岸命山



一般開放前の令和7年3月18日に
実施した完成避難訓練参加者との記念写真



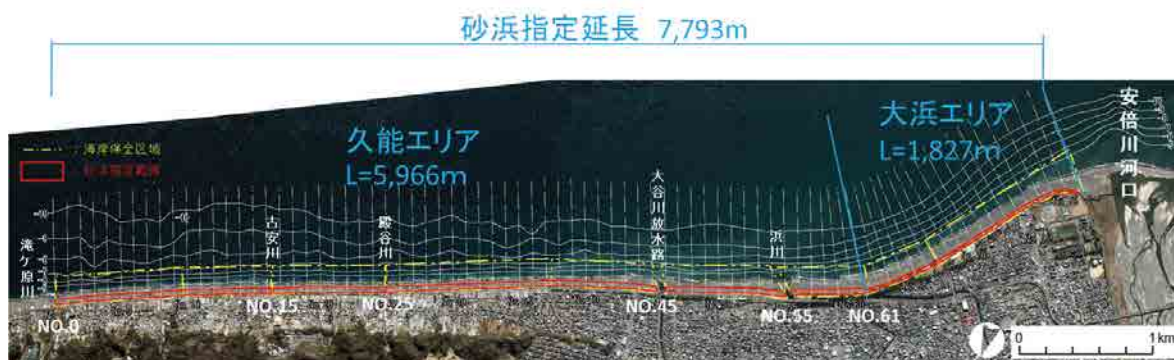
最後は参加した皆さんで記念撮影
新居高等学校書道部の皆さんに
愛称の文字を揮毫していただきました!

静岡海岸の砂浜を「海岸保全施設」に指定

県は、令和7年3月21日に安倍川河口から東側の静岡海岸の砂浜を「海岸保全施設」に指定しました。静岡海岸の砂浜は高度経済成長期に安倍川で大量の砂利採取が行われたことにより、消失が進行したため、昭和43年に砂利採取を規制しました。また、昭和48年から平成17年にかけて離岸堤を整備したことにより、安倍川から供給される土砂で砂浜の回復が進みました。その結果、平成30年には静岡海岸全域で砂浜が回復・安定したため、今回「海岸保全施設」の指定を行いました。

指定範囲は安倍川河口から清水海岸境界(駿河区と清水区の境)までの砂浜とし、堤防や離岸堤と同様に、背後地を防護する機能を担うため、今後も適切に維持管理を行ってまいります。また、砂浜の自然回復が三保に到達するまで、養浜事業を継続するとともに、50年の歳月をかけてよみがえった静岡海岸の砂浜を守り続けてまいります。

※公開URL (<https://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kasensabo/minato/1071157.html>)



中小河川の洪水浸水想定区域の指定

近年の激甚化・頻発化する水災害において、洪水予報河川及び水位周知河川に指定されておらず、洪水浸水想定区域図等が公表されていない中小河川での氾濫被害が発生しています。このような水害リスク情報の空白域における適切な情報提供が課題となっていることから、令和3年7月に水防法が改正され、洪水予報河川及び水位周知河川以外の中小河川の洪水浸水想定区域が、指定対象に追加されました。

県は、中小河川の洪水浸水想定区域図の作成を進め、令和7年3月31日に水防法に基づき県管理520河川から、対象外河川※を除く478河川のうち477河川、及び政令市管理河川10河川の洪水浸水想定区域を指定しました。

今後、指定に伴い、市町は地域防災計画の見直しを行い、洪水ハザードマップの作成・周知が義務となります。県は市町の取組を支援していきます。

※対象外河川：沿川に人家等が存在しない河川及び想定最大規模の降雨による浸水想定区域が無い42河川

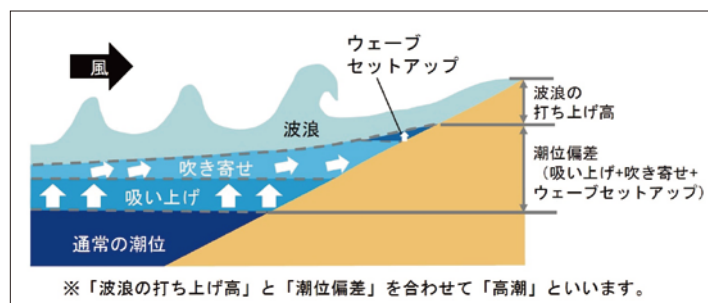
遠州灘沿岸の高潮浸水想定区域図の公表

県では、令和7年3月31日に遠州灘沿岸（御前崎市御前崎から湖西市まで）の高潮浸水想定区域図を公表しました。これは、既往最大規模である室戸台風級の台風が来襲し、想定し得る最大規模の高潮による氾濫が発生した場合の浸水状況を解析したもので、浸水範囲や浸水深、浸水継続時間の情報を表示しています。

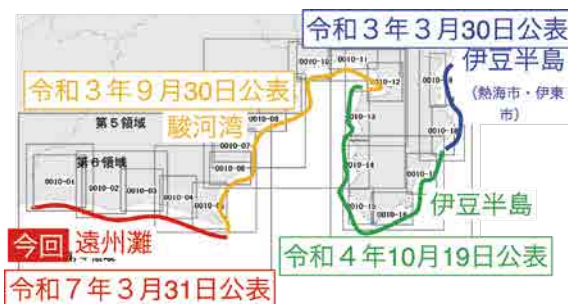
本区域図は、高潮による浸水の危険性を住民の皆様にお知らせするとともに、関係機関が連携して避難等の対策を講じていくことを目的として作成したものです。今回の遠州灘沿岸の公表により県内全ての沿岸の区域図の公表が完了しました。

今後も引き続き、関係市町と連携して、高潮に対する水防の強化及び避難体制の充実に向け、減災対策に取り組んでいきます。

※公開URL (<http://www.pref.shizuoka.jp/machizukuri/kasensabo/minato/takashiohigai/1050350.html>)



高潮の発生メカニズム



高潮浸水想定区域の公表状況

境川・清住緑地での取組が第5回グリーンインフラ大賞「優秀賞」を受賞!

三島市と清水町との境を流れる境川や隣接する清住緑地において、特定非営利活動法人グラウンドワーク三島、三島市、境川・清住緑地愛護会、加和太建設株式会社、静岡コンサルタント株式会社が取り組んだ『富士山からの豊富な湧水と水辺自然環境を守る地域協働活動』が、国土交通省が主催する「第5回グリーンインフラ大賞」で優秀賞を受賞しました。

本賞は、グリーンインフラに関する優れた取組・計画事例を表彰するものであり、令和7年4月21日にグラウンドワーク三島をはじめとした関係者が静岡県庁を訪れ、鈴木知事に、取組内容を説明するとともに受賞の報告を行いました。

県では、今後も地域との協働による川づくりを進めてまいります。



知事への受賞報告

第16回全国河川・ダム管理技術検討会において 「リモコン式草刈機を用いた効率的な河川管理」が奨励賞を受賞しました!!

近年の激甚化・頻発化する水災害に対し、河川管理施設の維持管理や老朽化したインフラへの対策は、ますます重要性を増しています。一方で、県が管理する河川の総延長は約2,600kmと非常に長大であるため、限られた予算の中で効率的な維持管理を進める必要があります。この課題に対応するため、県では適正な河川管理を推進する一環として、堤防除草作業の効率化に向けたリモコン式草刈機の導入を進めています。

令和7年2月18日に開催された「第16回全国河川・ダム管理技術検討会」において、県河川海岸整備課の増田主任が中部・近畿ブロックの代表として「リモコン式草刈機を用いた効率的な河川管理について」というテーマで発表を行い、奨励賞を受賞しました。この検討会は、河川やダム管理の現場における創意工夫や効果的な取組事例を全国で共有し、今後の業務効率化を目指すことを目的としており、当日は全国各地域から31名の代表者がそれぞれの取組を発表し、本県の取組は河川管理部門において高く評価されました。

県では安全かつ効率的な河川管理の実現に向けて、今後も現場の課題解決に取り組みながら、持続可能なインフラ整備を進めていきます。



賞状授与の様子

川って楽しい場所? 危ない場所? ～水難事故に備えよう～

川では水遊びを中心に、生き物採集、水切りなど、楽しい遊びが沢山あります。また、夏休みには家族や友達とともに河原でバーベキューを楽しむこともあるでしょう。

川遊びは非常に楽しいですが、その一方、沢山の危険が潜んでおり、毎年、水難事故が発生しています。

一見すると、川の流れが緩く、安全に遊べると思えるような場所でも、コンクリートや石畳などで河床に段差を設ける落差工などの構造物によって流れが複雑になっているなど、隠れた危険が潜んでいます。そのため、楽しく安全に川で遊ぶためには、正しい知識を身に付ける必要があります。

そこで県では、令和5年度に、川遊びのルールを分かりやすく記載したチラシ「川って楽しい場所? 危ない場所? ～水難事故に備えよう～」を作成し、小中学校などへ配布しました。

今年度は、県広報SNS（公式ライン、Xアカウント）へ、このチラシを掲載することなどで、広く一般の方に向けて水難事故防止の注意喚起を行います。



水難事故防止啓発チラシ(表)



水難事故防止啓発チラシ(裏)

能登半島地震の支援派遣から学ぶ、復旧復興の課題と成果

静岡県河川海岸整備課 主査 福田達樹

令和6年4月から4ヶ月間、穴水町に派遣され、災害復旧支援を行いました。被災地の広範な被害と人員不足の中、初動として優先課題を設定し、外部支援を迅速に要請する方針を示しました。特に測量や地質調査では県外企業との連携を推進し、必要な技術者や資機材を確保しました。

一方で、地域企業や協会が県外への支援要請を躊躇する姿勢が一部対応の遅れを招いたため、災害時の対応能力の限界認識と外部支援の重要性を業界内で共有する必要性を痛感しました。

穴水町では、災害復旧を担当する技術職員が1名のみで、被災直後から圧倒的に人員不足な中で、高度な技術判断も含めて様々な課題が降り注ぎ、判断を先送りして機能不全になっていました。派遣経験を基に静岡県内市町への研修や講演を行い、地域の災害対応力向上に努めています。

この経験から、初動の迅速な判断、外部への支援要請、復旧復興マネジメント人材の確保が迅速かつ適切な復旧・復興における鍵になると思います。



町の広報誌に他県職員と共に掲載



能登支援のロゴ(穴水町出身者が作成)



住宅地内での道路崩落が多発
生活基盤の復旧が急務であった

能登半島被災地支援で学んだ被災地の課題

静岡県河川企画課 技師 今村敦博

令和6年1月の能登半島地震及び同年9月の奥能登豪雨により甚大な被害を受けた石川県の復旧・復興のため、令和6年度は2～4か月交代で各期間2名、合計9名が派遣されました。

静岡県から石川県に派遣された職員は、奥能登土木総合事務所分室(のと里山空港)に配属され、輪島市町野地区と鳳珠郡能登町の道路災害復旧事業を担当しています。

元日に発生した能登半島地震の復旧・復興途上に奥能登豪雨が発生し、道路崩壊や土砂災害等が多くの箇所が発生し、公共土木施設の被害額は石川県内(市町含む)で1兆円を超える被害となりました。

令和6年12月までに災害査定が完了し、私が派遣されていた令和7年2～3月は測量・設計等の工事発注に向けた委託業務に取り組んでいました。災害査定が超簡易型となり、被災状況が把握できていないまま査定を受けていたため、測量・設計等も一からのスタートとなりました。また、冬には降雪により作業が止まってしまうことや、半島という地形により県外から来る業者が現場に行きにくいことや作業員の宿泊所不足など、地形的にも課題が多いと感じました。



地震被害状況



豪雨被災状況



降雪後の宿舎の状況



袋井市

袋井市の中心市街地を横断する原野谷川は、^{はらのやがわ}太田川へ合流したのちに遠州灘へと注ぐ二級河川です。比較的緩やかな地形により、水の流れが穏やかなため、豊かな自然環境が形成されています。

また、河川沿いには原野谷川親水公園、原野谷川スポーツ公園、メロン公園など多くの公園や広場が整備されています。桜並木が整備された堤防は広く市民に親しまれ、公園の広場では、サッカーやグランドゴルフなどスポーツの場として多くの方々に利用されています。

特に原野谷川親水公園は、『ふくろい遠州の花火』の会場となっており、全国から選抜された超一流の花火師による最高峰の芸術花火が夏の夜空を彩ります。今年の開催予定日は、7月26日(土)となっております。思い出に残る感動的な出会いが待っていますので、是非お越しください。



桜並木 (袋井市新池地区)



広場利用の様子 (メロン公園)



ふくろい遠州の花火

【お問合せ先】 袋井市土木防災課 TEL:0538-44-3166

長泉町

長泉町内を流れる桃沢川は愛鷹山中腹を起点とし、狩野川水系最大の支流である黄瀬川に流れ込む、良好な水質と水量に恵まれた一級河川です。

桃沢川の上流区域はヤマメなどの生息に適した環境に恵まれています。また、昭和53年から現在に至るまで、アマゴの放流活動を継続しており、町内の幼稚園や保育園児の参加により、自然との触れ合いや環境美化への啓蒙活動の場としても貴重な機会となっています。

そのほか、親子水生生物観察会を定期的に実施しており、網などを使って生物を採取し、採取した生物の色や大きさなどから種類を判別して綺麗な水かどうかを表す「水質階級」を学んでもらい、子供たちが身近な河川の環境を知ること、河川美化に向けた意識を育む機会を設けています。



アマゴの放流



親子水生生物観察会



桃沢川

【お問合せ先】 長泉町建設計画課 TEL:055-989-5521

『第22回しずおか川自慢大賞』が開催されました

「第22回しずおか川自慢大賞」が、令和7年2月23日に静岡市のもくせい会館で開催されました。今年は、「イイね!その川 川でつながる地域(みんな)の元気!! もっと×2 川で遊ぼう!」をテーマに、県内の川や水辺を舞台に活動する9つの団体が、愛する水辺について自慢(発表)しました。

第22回しずおか川自慢大賞の選考は、会場に集まった皆さんが審査員となり、各々が応援したい活動団体に「最高!」「素晴らしい!」「素敵!」の応援投票をする方法で行いました。今回は『瀬名新川★生き物助け隊』による、「小さな河川の河床掘削工事後に、子供たちとやった水辺の小さな自然再生による多自然川づくり」が川自慢大賞を受賞しました。

「第23回しずおか川自慢大賞」は、令和8年2月頃に静岡市内にて開催する予定です。水辺が好きな仲間同士が見たり聞いたり情報交換もできる楽しい場となっておりますので、どうぞ遊びに来てください。河川や水辺をフィールドに活動をされている団体・個人の皆様の積極的な御参加、御来場をお待ちしております。



参加者みんなで記念写真

ごあいさつ

県河川砂防局長の山田真史でございます。

会員の皆様には、日頃から本県の河川・海岸行政に御理解と御支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、8月下旬から9月上旬にかけて台風第10号に伴う豪雨が発生し、長期間にわたって広範囲に雨が降り続き、県中部を中心に浸水被害が発生しました。このように県内では水災害が新たなステージに入っており、今後更なる激甚化・頻発化が予想されることから、「流域治水」をより一層推進する必要があります。引き続き住民も含めた流域のあらゆる関係者と連携して水災害への取組を推進してまいります。

また、昨年8月には宮崎県の日向灘で発生した地震に伴う南海トラフ臨時情報(巨大地震注意)の発表や本年3月には内閣府から新たな地震被害想定が公表されました。今後は本県においても新たな被害想定を検討が進められます。

引き続き、水災害と向き合い、安全・安心で魅力あるふじのくにの実現を目指して、会員の皆様とともに“いっしょに未来の地域づくり”を進めてまいります。



静岡県河川協会事務局より

- ◇静岡県河川協会では、9月に河川関係事務研修会、10～11月に昨年度も御好評をいただいた県外視察研修会を開催予定です。また、10月28日に三重県で中部地方治水大会が、11月10日に災害復旧促進全国大会・11月11日に治水事業促進全国大会が東京都で開催されます。協会会員市町の首長様をはじめ、多くの職員の皆様の御参加をお願いいたします。
- ◇河川協会ホームページでは、協会の概要や活動報告、河川に関するイベント情報やコラムなど様々なコンテンツを公開しています。県内河川・海岸に関する話題や巷のイベント情報など、随時募集しておりますので、お気軽にメールで情報をお寄せください。

☆静岡県河川協会ホームページ☆
<https://shizuoka-kasenk.com/>

静岡県河川協会



【連絡先】 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
静岡県河川協会(静岡県交通基盤部河川砂防局内)
TEL: 090-1416-4365 FAX: 054-221-3260
E-mail: kasenk_shizuoka@yahoo.co.jp



事務局キャラクター

公益社団法人 日本河川協会 個人会員募集のお知らせ

公益社団法人 日本河川協会では個人会員を募集しております。詳細につきましては下記宛にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先/公益社団法人 日本河川協会
〒102-0083 東京都千代田区麹町2丁目6番5号 麹町E.C.Kビル3階
TEL: 03-3238-9771 FAX: 03-3288-2426